

経営の重点	アンケート評価の結果			今年度の方向性	学校評議員会での意見
	肯定的評価の割合 (%)	数値平均 (4点満点)	評価		
(1) 「まなびフェスト」の徹底 ① よく学びとる生徒					
・「わかる授業」づくり(授業スタイルの徹底) (授業が分かる生徒80%)	生徒 89% 保護者 88%	生徒 3.2 保護者 3.3	○	・校内研究の推進 ・校外研修会への参加	・立派な態度で授業を受けている。 ・考えを伝える力は、将来役立つことから、その力を育成することに賛成である。
・考えを伝える力の育成 (積極的な発言)	生徒 53%	生徒 2.6	△	・校内研究の推進(考えを交流する活動の工夫)	
・各種学習調査結果の分析と活用	職員 70%	職員 2.8	△	・各種調査結果を踏まえた授業改善	
・読書の推進と記録(書くこと)による自己との対話(月1冊以上読破)	生徒 62% 保護者 86%	生徒 2.9 保護者 3.2	○	・朝読書の充実 ・読書通帳の活用	
② よく思いやる生徒					
・良さも違いも認め合う、温かい人間関係づくり(明るい挨拶・温かい言葉)	生徒 91% 保護者 84%	生徒 3.4 保護者 3.1	○	・道徳教育の充実 ・家庭への働きかけ強化	・体験活動の中で、子ども達の姿がよく見える。とても貴重な機会である。
・いじめのない、思いやりと規律ある学校づくり(いじめゼロ 早期発見)	生徒 98% 保護者 73%	生徒 3.8 保護者 2.8	○	・生徒への共通理解 ・早期発見と適切な指導	
・体験の充実(キャリア体験・ボランティア体験)行事への積極的な参加	生徒行事 96% ボラ 89% 保護者 96%	生徒 3.7 3.4 保護者 3.6	◎	・体験活動の計画的な実施 ・活動の見える化と掲示	
③ よく鍛えみがく生徒					
・家庭学習の工夫(学習習慣の確立)(1日80分以上)	生徒家庭 57% スコラ 72% 保護者 84%	生徒 2.6 2.9 保護者 3.2	△	・手帳を活用した家庭学習への意欲づけ	・「得意なことを伸ばす」と同時に、「苦手なことを好きにさせるか」ということに学校の創意工夫が求められる。
・規則正しい生活習慣の確立(早寝・早起き・朝ごはん)(メディア利用)	生徒 87% メディア 87% 保護者 76% メディア 69%	生徒 3.4 3.4 保護者 3.0 2.8	○	・家庭との連携 ・メディアの使い方についてのルールづくり	
・主体的に進路選択し決定する力	生徒 81%	生徒 3.2	○	・キャリア・パスポートの活用	
・災害についての知識をもち、安全に生活できる力	生徒 94%	生徒 3.5	◎	・防災学習の計画的実施	
(2) 家庭・地域との連携・協働					
・情報の発信と共有	職員 100% 保護者 84%	職員 3.5 保護者 3.1	○	・生徒の姿を伝える学級通信の発行を増やす。	・コロナ禍において来賓無しの行事が続いており、地域としては寂しい。子どもの活躍する姿を見る機会が減って残念である。
・学校評価の分析のもと、課題解決に向けての協働(ノーメディアの取組み)	生徒 100% 保護者 76%	生徒 4.0 保護者 3.2	○	・家庭と連携したノーメディア取組み。	
・地域を知り、地域で学ぶ活動の推進(子ども会育成会、ボランティア活動)	職員 100% 保護者 94%	職員 3.7 保護者 3.4	○	・地域学習と地域の人材活用 ・保、小、図書館、市民センター等との連携	
(3) 働き方改革の推進					
・業務内容の見直し(重点化と精選) ・時間の有効活用・整理整頓	職員 91%	職員 3.2	○	・引き続き業務内容の見直しを図る	

評価の判断基準：◎→90%かつ3.5以上、○→70%かつ3.0以上、△→50%かつ2.5以上、×→50%または2.5未満